

歴史遺産研究

Bulletin of the Department of Historic Heritage,
Tohoku University of Art and Design

第20号

目次

論文

有珠モシリ遺跡出土の聖山式及び幣舞式折衷土器の分析
堀籠光太郎 HORIGOME Kotaro (1)

関札の大きさと家格の比例関係について
菊地 恵 KIKUCHI Megumi (11)

古代出羽国域出土斎串の考察
岡崎 竣矢 OKAZAKI Shunya (21)

新潟県域における複式炉の変遷
— 縄文中期の地域間交流と伝播経路の解明 —
中村 悠河 NAKAMURA Yuga (31)

福島県内の中世城館
— 福島県耶麻郡を事例にして —
後藤 優和 GOTO Masakazu (41)

報告

山形県酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告5
青野 友哉 AONO Tomoya
佐藤 祐輔 SATO Yusuke
渡部 裕司 WATANABE Yuji (49)

北海道伊達市有珠モシリ遺跡発掘調査概要報告6
青野 友哉 AONO Tomoya
永谷 幸人 NAGAYA Yukihiro
三谷 智広 MITANI Tomohiro (55)



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

2026年

東北芸術工科大学
歴史遺産学科

東北芸術工科大学

歴史遺産研究

第20号 2026年

目次

Contents

論文

有珠モシリ遺跡出土の聖山式及び幣舞式折衷土器の分析

堀籠光太郎 HORIGOME Kotaro 1

関札の大きさと家格の比例関係について

菊地 恵 KIKUCHI Megumi 11

古代出羽国域出土斎串の考察

岡崎 峻矢 OKAZAKI Shunya 21

新潟県域における複式炉の変遷

— 縄文中期の地域間交流と伝播経路の解明 —

中村 悠河 NAKAMURA Yuga 31

福島県内の中世城館

— 福島県耶麻郡を事例にして —

後藤 優和 GOTO Masakazu 41

報告

山形県酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告5

青野 友哉 AONO Tomoya

佐藤 祐輔 SATO Yusuke

渡部 裕司 WATANABE Yuji 49

北海道伊達市有珠モシリ遺跡発掘調査概要報告6

青野 友哉 AONO Tomoya

永谷 幸人 NAGAYA Yukihito

三谷 智広 MITANI Tomohiro 55

2024年度 歴史遺産学科 卒業論文

《考古学》

- 堀内 康介 東北地方における石製模倣品の伝播－上柳渡戸八幡山遺跡を中心として－
- 高橋 望 用途不明骨格器の再検討～山形県遊佐町小山崎遺跡資料を中心に～
- 堀籠光太郎 土器の施文手法の検討からみた縄文人の交流と移動－有珠モシリ遺跡出土の異形統土器の分析－
- 中村 悠河 新潟県域における複式炉の変遷－縄文中期の地域間交流と伝播経路の解明－

《考古学、歴史遺産マネジメント》

- 澁谷 歩理 特別史跡多賀城跡附寺跡における史跡活用の将来性とその課題－外郭南門復元事業を契機に－
- 菊地 恵 関札の大きさと家格の比例関係について
- 岡崎 竣矢 古代出羽国域出土斎串の考察
- 高橋 まな 古文書・公文書資料の保存・活用の変遷と課題－全国と山形県を比較して－
- 岸柳 壮大 山形県山形市における石鳥居の構造分析－高島町の鳥居を事例に－
- 石川 諒 江戸時代元和・寛永期の採石活動－小豆島豆腐石丁場における残石状況と石割作業の復元－

《歴史学》

- 會田 陸人 須川水運の歴史地理的検討－須川河岸の構成要素の復元を事例として－
- 本間 智仁 山形市における「軍隊と地域」－明治末年から大正時代を対象に－
- 後藤 優和 福島県内の中世城館－福島県耶麻郡を事例として－
- 永沢 駿 明治・大正期の町村財政の考察－秋田県横手市山内地域を例に－

《民俗・人類学》

- 鈴木 薫子 家事代行業にみる家事労働の現代的様相
- 鈴木 駿兵 最上氏による庄内支配の過程
- 武田 栄人 新庄市における獣害と狩猟者の現況
- 木村 当意 民俗芸能を映した映像記録と技術をめぐるエスノグラフィ
- 継承に取り組む東北地方の民俗芸能を事例として -
- 本田 真将 無形民俗文化財の継承とその変容の課題について - 山形県山形市高瀬地区の鹿楽招旭踊を事例に -
- 平地 真乃 仙台門松の消長と復元
- 下嶋 壮汰 怪談史におけるネット怪談 - 新しい怪談を巡る - 考察 -
- 太田 元気 山形市豊烈神社の騎馬打毬をめぐる継承と保存
- 大井 那奈 「ムカサリ絵馬」はどのように伝わっていくのか - 鈴立山若松寺を事例に -
- 後藤 智也 民俗芸能の文化財指定をめぐる活動と伝承組織
- 山形県飽海郡遊佐町における番楽・杉沢比山の事例より -

《建築史学》

- 菊池 悠 伝統芸能のwebを用いた発信のあり方 - 岩手県の神楽を対象として -
- 前野 日和 歴史地区における防災に関する研究
- 重要文化的景観「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」を事例として -
- 丹野 友稀 上山市のデジタル化施策について - 文化財デジタル活用の意義 -
- 吉濱 岳 学問における主観性と正確性 - 学術資料『写真・実測図・イラスト』を事例として -

東北芸術工科大学『歴史遺産研究』寄稿要項

1. 歴史遺産研究は東北芸術工科大学歴史遺産学科に関連する諸科学に関する論文・研究報告、調査報告等を掲載・発表することにより、学科教育と研究の発展に寄与するものである。
2. 歴史遺産研究に投稿することができる者は、以下の通りとする。1)東北芸術工科大学の教職員(同客員、非常勤の教員を含む)、2)東北芸術工科大学の名誉教授、3)その他、歴史遺産学科において適当と認められた者。
3. 原稿執筆における使用言語は日本語・英語を原則とする。
4. 寄稿する原稿には英文タイトルを添付する。
5. 原稿はA4版横書き、1頁2段組で2,050字(25字×41行)とし、十分な余白を取る。(図、表、写真、図版などはそれぞれ別頁として準備する。さらにそれらのキャプションを別途準備する)。図版類の版下は1頁縦22cm×横14cmとする。
6. 原稿はパソコンで作成し、原稿の提出先は東北芸術工科大学歴史遺産学科とする。
7. 掲載した1原稿につき、別刷り50部までを無償とし、それ以外は筆者の負担とする。
8. 歴史遺産研究に掲載された論文等の著作権は歴史遺産学科に帰属するものとする。
9. 掲載した1原稿につき、抜刷り50部までを無償とし、それ以上は筆者の負担とする。
10. 歴史遺産研究に掲載された論文等の著作権は、歴史遺産学科に帰属するものとする。

執筆者紹介

堀籠光太郎 (東北芸術工科大学大学院 修士課程 芸術文化専攻 歴史文化領域)

菊地 恵 (東北芸術工科大学芸術学部 卒業生)

岡崎 竣矢 (同 上)

中村 悠河 (同 上)

後藤 優和 (同 上)

青野 友哉 (東北芸術工科大学芸術学部 教授)

佐藤 祐輔 (同 准教授)

渡部 裕司 (酒田市 企画部)

永谷 幸人 (伊達市噴火湾文化研究所)

三谷 智広 (パレオ・ラボ)

東北芸術工科大学 歴史遺産研究 第20号/2026

令和8年3月31日 発行

編集・発行 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科

〒990-9530 山形市上桜田3-4-5

印刷 株式会社大風印刷



Bulletin of the Department of Historic Heritage, Tohoku University of Art & Design

**Vol.20
2026**

Table of Contents

Chief Articles

Analysis of Compromise-style Pottery of the Seizan and Nusamai Types Excavated from the Usu Mosiri Site.

HORIGOME Kotaro (1)

The Relationship Between Sekihuda Dimensions and family status

KIKUCHI Megumi (11)

Archaeological Insights In To The “Igusi” Excavated In Ancient Dewa Province

OKAZAKI Shunya (21)

The evolution of Fukusiki-ro hearth (multi-function hearth) in Niigata prefecture
– Unraveling regional interactions and the spread routes during the mid Jomon period –

NAKAMURA Yuga (31)

Medieval Castles in Fukushima

– A Case Study of Yama District, Fukushima –

GOTO Masakazu (41)

Research notes

Overview on Archaeological Excavation of the Oishi 2 site in Sakata City, Yamagata Prefecture, Vol.5

AONO Tomoya

SATO Yusuke

WATANABE Yuji (49)

Overview on Archaeological Excavation of the Usumoshiri site in Date City, Hokkaido, Vol.6

AONO Tomoya

NAGAYA Yukihiro

MITANI Tomohiro (55)